

## 第47回全難言協全国大会福島大会を終えて

福島大会実行委員長 渡邊 浩人（福島市立福島第四小学校長）  
福島大会事務局長 安藤 順子（福島市立福島第四小学校教諭）

第47回全難言協全国大会は、「ことばと想いを育む 輝く笑顔のために ～子どもたちの思いやニーズに寄り添う指導や支援をめざして」の大会主題のもと、平成30年7月26日27日の2日間にわたり福島県福島市「コラッセふくしま」を会場に開催いたしました。東日本大震災後の開催ということで多くの不安がありましたが、たくさんの励ましのもと全国から350名（一般参加者286名、来賓・講師・実行委員64名）の参加をいただき、大会を通して研究の成果と共に福島の確かな復興を実感していただくことができたことは、この上ない喜びであります。参加された皆さん、そして本部の皆様をはじめとする関係各位に改めて感謝を申し上げます。

さて大会初日は、文科省初等中等教育局特別支援教育課特別支援教育調査官庄司美千代先生より、新学習指導要領改定のねらいについてご講話をいただきました。学習指導要領の改訂に携われた先生の話を通じて直接お聞きする機会の少ない、特に本県や東北地区の先生方にとってまたとない学びの機会となりました。

記念講演では、本県出身の詩人和合亮一氏に「福島から言葉の橋を架けたい」と題してお話をいただきました。紹介される震災後の福島の子どもの詩や17文字の短文を通して、子どもたちの言葉を拾い上げたのは教師や家族であり、教育愛や家族愛こそが復興の原動力であったことに気付かされました。感動的な詩の朗読とお話により、時間がたつのも忘れて引き込まれた方が多かったのではないのでしょうか。また、改めて難聴言語障害教育という言葉に携わるものとして、言葉のもつ力について振り返る機会となったこと、このような感動体験を伴う形で、福島の復興が着実に進んでいることを全国の皆さんにお示しすることができたことを主催者としてうれしく感じております。

第2日目は、「構音障害、吃音、発達障害、聴覚障害、連携」の5つの分科会に分かれて研究発表、研究協議、講話・演習等を行いました。実践報告や各分野での専門家による指導助言及び演習等により、専門性の高い研修の機会を提供することができたと考えております。分科会ごとに進め方に違いがあること、グループ協議や研究協議での協議の柱の設定など協議の深め方等につきましては、改善の余地があると考えております。お寄せいただいた貴重なご意見を基に本大会の課題を明らかにして、次期三重大会に繋いでいきたいと考えております。

最後になりますが、懇親会やお帰りの際に多くの皆様からいただいた「また福島に来ます」のことばと皆様の輝く笑顔が（日本一の福島のお酒の力も大きかったですねきっと）、私たち実行委員にとって最高の労いとなりました。本大会が、「ことばと想いを育む」会員や実践者の、そして、本会発展のための架け橋となれたのであれば幸いです。ありがとうございました。

